松山南高等学校 令和4年度「データサイエンスⅢ」論文(中間報告)評価用ルーブリック

○DSⅢの論文(中間報告)について、2~4いずれかの評価をしてください。3の記載内容を標準的なレベルとします。 特に達成度の高い、または低い項目は、それぞれ5、1と評価してもよい。

(5:特に他の生徒の模範となるレベル 1:全然できていないレベル)

	配	領	評価	(5~)4	3	2(~1)	取組
	点	域	観点	標準的なレベル(3)を越えて達成できた	標準的なレベル(3)をおおむね達成できた	標準的なレベル(3)を達成したとはいえない	評価
1	5	P(問題)	課題発見/ 目的と仮説	自らテーマを設定し、データから課題の原因を掘り下げて 考え、解決すべき課題と要因のつながりを特定し、研究目的 や仮説を述べている。	自らテーマを設定し、課題を捉え、それに対する研究目的や 仮説が述べられている。	研究目的や仮説を述べているが根拠となるデータなどが述べられてない。 研究目的や仮説が述べられていない。	/5
2	5	P (計画)	データ収集	問題を解決する適切なデータについて述べられており、分 析の見通しを立て、適切で根拠のある計画を立てた。	問題を解決する適切なデータについて述べられており、計 画の概略をつくることができた。	利活用するデータが述べられていない、または問題にあっ たデータ収集ではない。	/5
3	5	D(デー	データ収集	切り口を工夫し、問題発見・要因特定・問題解決につながる 多面的でかつ客観性の高いデータを適切に集めることがで きた。	問題解決につながるデータを集めることができた。	データが収集できなかった、または収集したデータが不適切 であり、問題の解決にはつながらなかった。	/5
4	5	タ)	データ整備	問題解決に適するデータ軸や範囲を採用し、比率に加工す るなどのデータ整備ができた。	属性や時間別に分解するなど、問題解決につながるデータ 整備ができた。	収集したデータを整備することができなかった。(生データ のまま、または不必要なデータが混交している。)	/5
5	5	A(分析)	データ分析	データを視覚的に比較し、差異を見いだして客観的な評価 を可能にするなど特徴がつかみやすい図(グラフや表など) が作成でき、分析に繋がるものである。	データを比較するのに適当な図(グラフや表など)やデータ を視覚的に捉えることができる図(グラフや表など)を作成 することができ、分析に繋がるものである。	図(グラフや表など)を作成しているが、比較の軸が一致せず、凡例や数値が読みにくいなど、データを視覚的に捉えることが難しく、伝えたいメッセージが明確でなく、分析ができるとは考え難い。	/5
6	5	C (ま	考察	多角的な視点を持ち、効果を検証したりするなど、有効で実 現可能なアイデア(結論)を述べている。	問題解決につながるアイデア(結論)を述べている。	具体的または実行可能なアイデア(結論)が提示されていない。	/5
7	5	とめ)	結論	問題の意味を広く認識し、結論をもとにさらに広げようとした。 た。結論を明確に説明できる見通しがある。	結論を適切にまとめることができる見通しがある。	不十分な点があり、結論をまとめることができる見通しが 立っていない。	/5
8	5		計画·準備· 実施状況	主体的かつ定期的に担当教員に執筆状況を報告・相談しながら執筆を続けており、1学期末に論文が完成する見通しがある。	月に1回程度相当、担当教員に執筆状況を報告・相談しながら執筆を続けており、1学期末に論文が完成する見通しがある。	担任・担当教員から指示があっても担当教員に執筆状況の報告・相談をほとんどしなかった。	/5
9	5	取組	興味·関心	課題への高い意識を持ち、研究テーマについて仮説と検証 を繰り返しながら探究できている。結論を聞くのが楽しみな 研究である。	新たな課題を発見するなど、関心を持って研究テーマに取り 組むことができた。	仮説に対して一つの解答を出すにとどまるなど、進んで研究 テーマを深めることができなかった。	/5
10	5	状況	創意工夫	これまでの先行研究や他者の取組との比較を行って独自の 提案をするなど、オリジナリティのある研究ができた。	データの切り口を工夫したり、自分なりに調査を行ったりす ることができた。	データや分析手法に工夫が見られなかったり、既存のグラフ の引用にとどまったりした。	/5
11	5	総合	データの出典	データの出典が明記されており、公的な機関による信ぴょう 性の高いデータが用いられている。	データの出典が明記されている。	データの出典が明記されていないか、信ぴょう性の低い データが用いられている。	/5
12	5	Н	役割分担と 協力	自分の役割を十分果たすとともに、他のメンバーへも貢献 し、建設的な意見を出すなど、グループの研究に貢献した。	自分の役割はおおむね果たすことができたが、他のメン バーへの貢献は十分ではなかった。	自分の役割を果たせず、他のメンバーに頼りきりであった。	相互評価
13	5		表示方法と文体	統一された表示と文体で、文章構成は論理的である。	表示と文体の統一感はあり、文章構成もおおむね論理的である。	表示と文体の統一感がなかったり、文章構成が論理的でなかったりする。	/5
コメント							計 /60